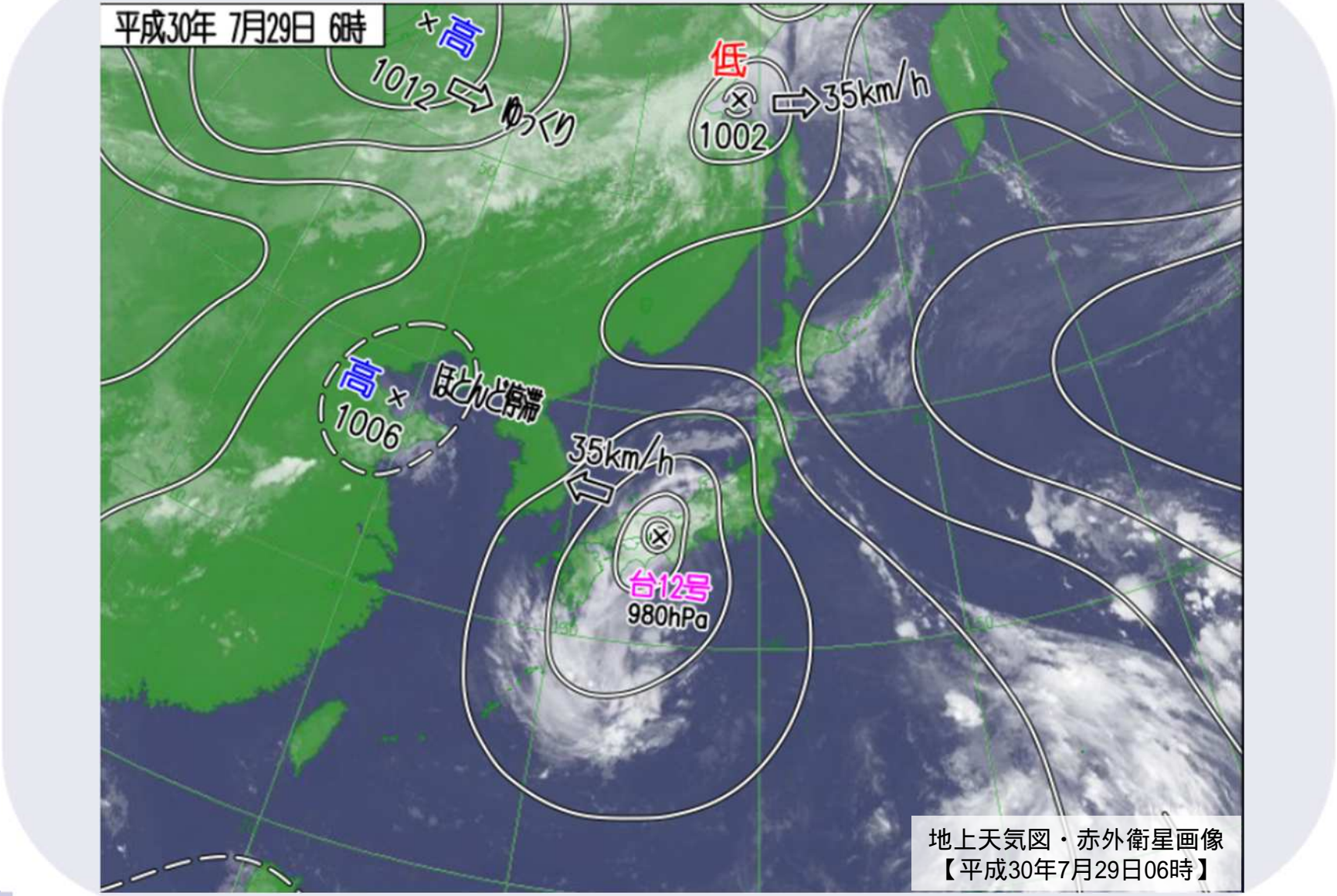


平成30年台風第12号に関する説明会

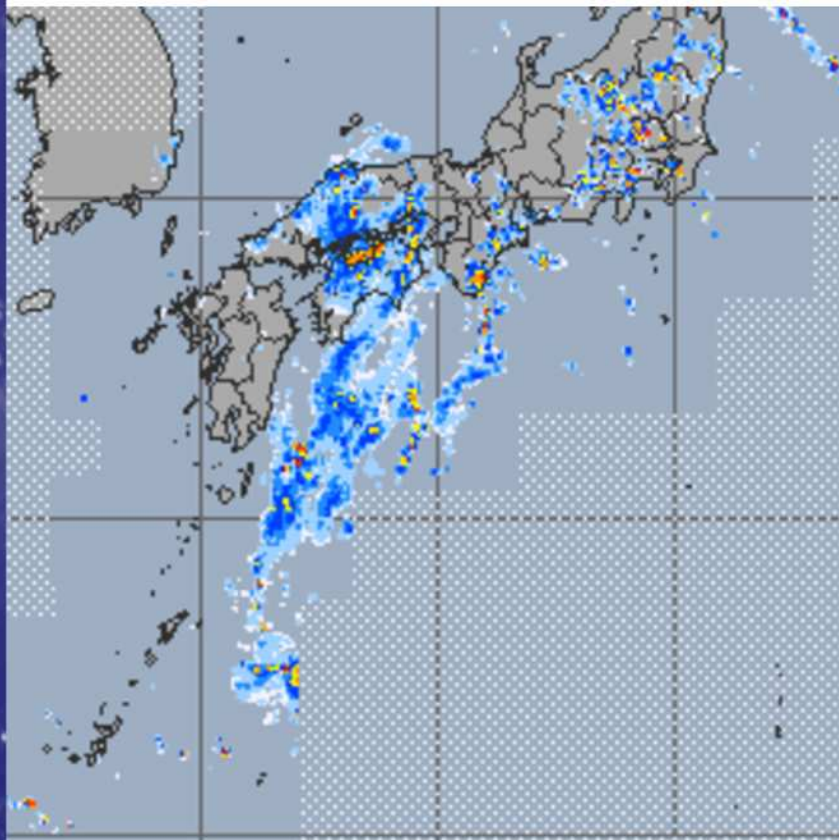
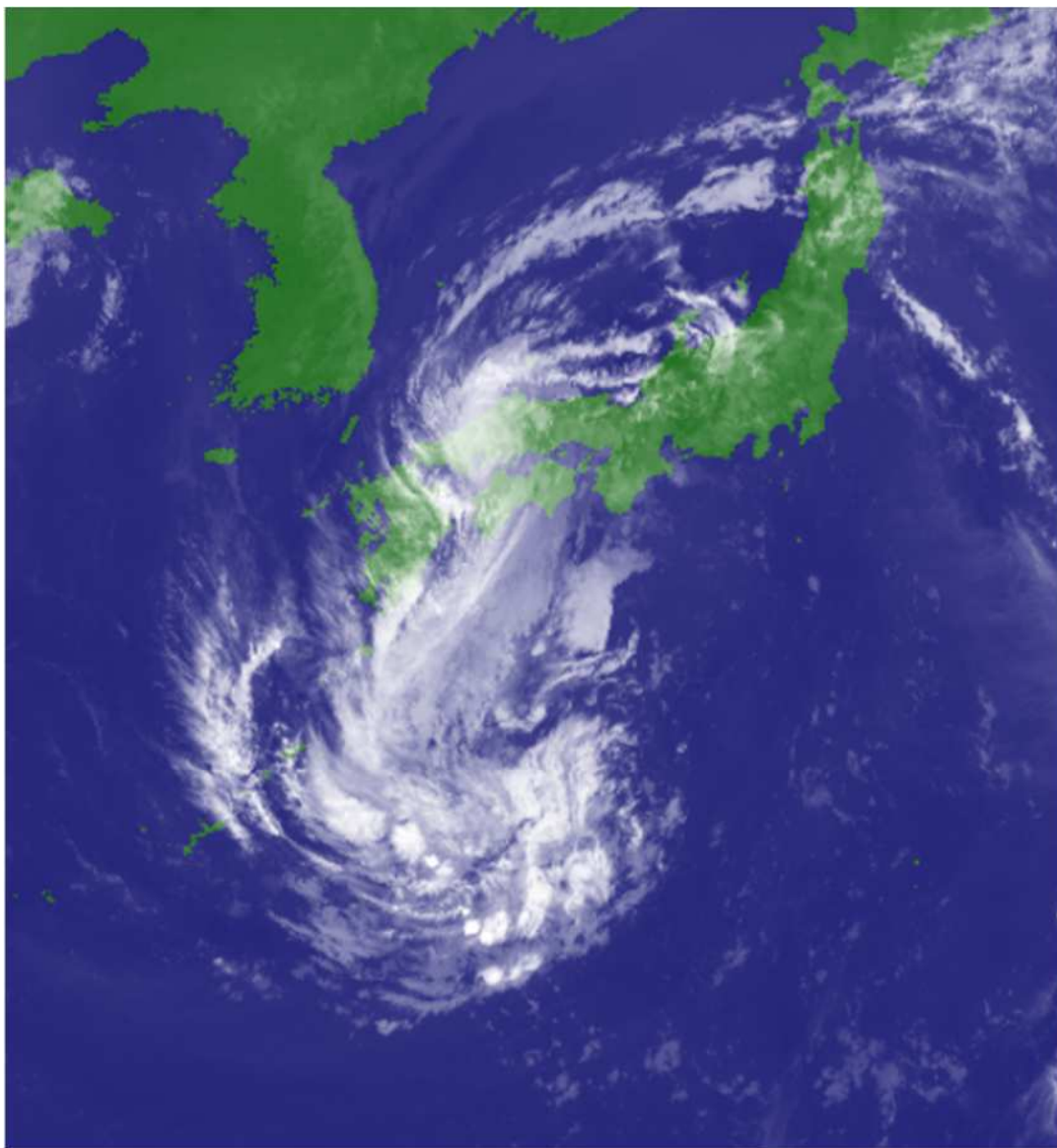


平成30年7月29日

平成30年台風第12号の特徴と防災事項

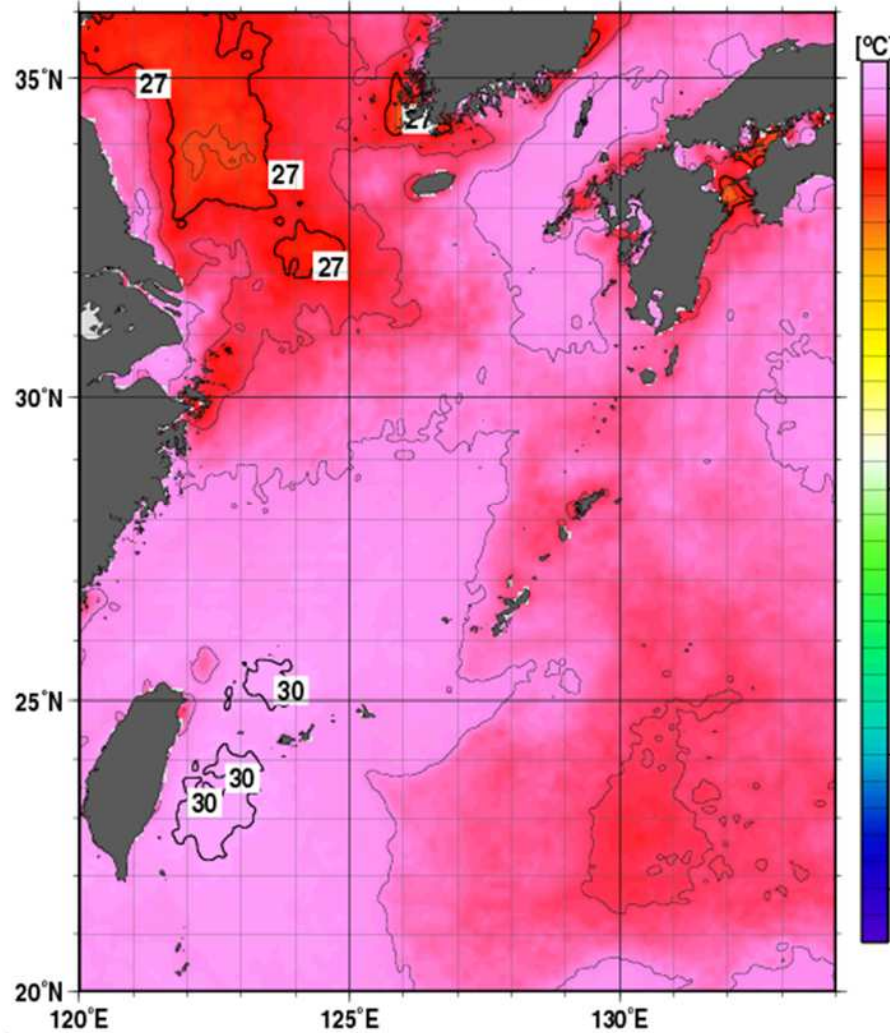
- 台風第12号は、30日明け方から31日未明にかけて九州南部に最接近する見込みであるが、寒冷渦との相互作用により、複雑な動きをし、影響が長引く可能性がある。
- 30日未明から朝にかけて非常に激しい雨の降るおそれがあり、薩摩・大隅地方では**土砂災害に警戒**
- 沿岸の海域では、強風やうねりを伴った高波、高潮に注意
- 落雷や竜巻などの激しい突風にも注意。

気象衛星(赤外),レーダー降水ナウキャスト (7月29日09時)



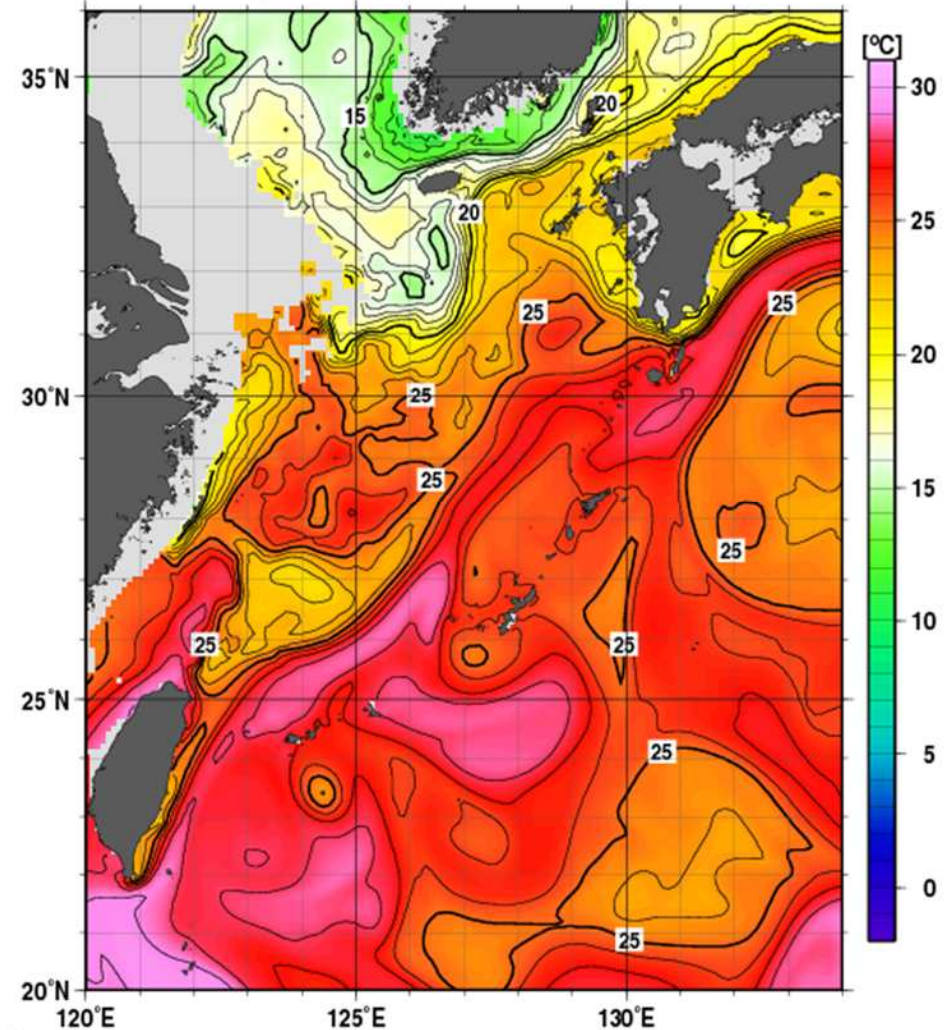
東シナ海海域の海面水温と表層水温 (7月27日)

Daily SSTs 27 Jul. 2018.



海面水温

Daily 50m temperatures 27 Jul. 2018.



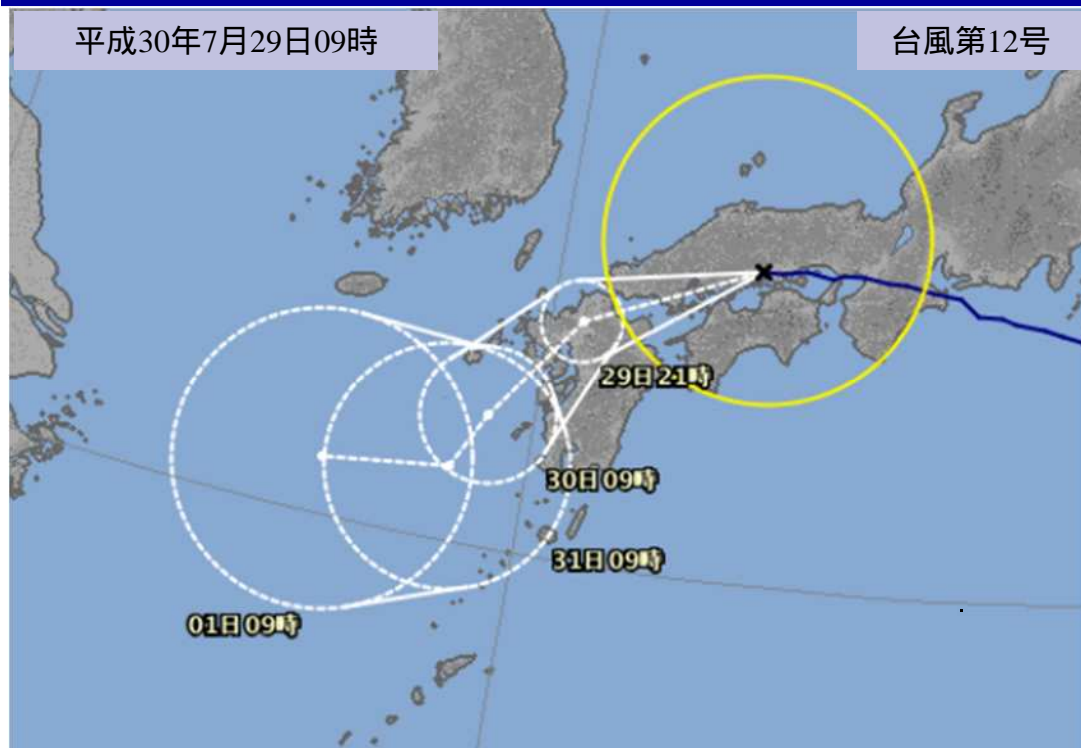
表層水温 深さ：50m

台風の進路予想

最新の台風情報をご利用ください。

平成30年7月29日09時

台風第12号



〈29日09時の実況〉	
大きさ	-
強さ	-
存在地域	倉敷市付近
中心位置	北緯 34度35分(34.6度) 東経 133度35分(133.6度)
進行方向、速さ	西 35km/h(18kt)
中心気圧	990hPa
最大風速	23m/s(45kt)
最大瞬間風速	35m/s(65kt)
15m/s以上の強風域	北側 330km(180NM) 南側 220km(120NM)

〈29日21時の予報〉	
強さ	-
存在地域	福岡市付近
予報円の中心	北緯 33度30分(33.5度) 東経 130度30分(130.5度)
進行方向、速さ	南西 25km/h(13kt)
中心気圧	994hPa
最大風速	18m/s(35kt)
最大瞬間風速	25m/s(50kt)
予報円の半径	70km(40NM)

〈30日09時の予報〉	
強さ	-
存在地域	五島市の南南東約100km
予報円の中心	北緯 31度55分(31.9度) 東経 129度10分(129.2度)
進行方向、速さ	南西 20km/h(10kt)
中心気圧	994hPa
最大風速	18m/s(35kt)
最大瞬間風速	25m/s(50kt)
予報円の半径	110km(60NM)

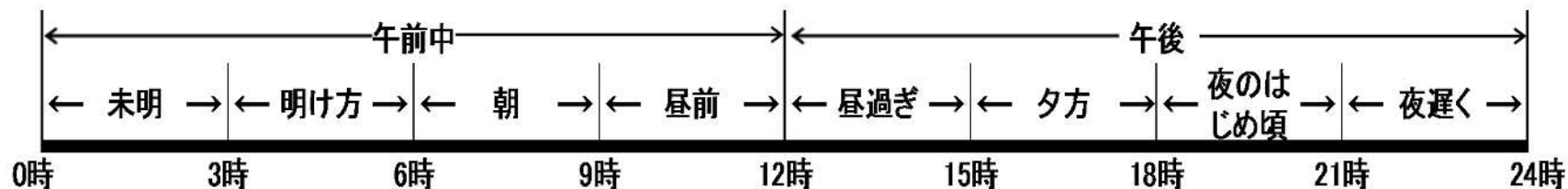
〈31日09時の予報〉	
強さ	-
存在地域	枕崎市の西約150km
予報円の中心	北緯 31度05分(31.1度) 東経 128度40分(128.7度)
進行方向、速さ	南南西 ゆっくり
中心気圧	990hPa
中心付近の最大風速	20m/s(40kt)
最大瞬間風速	30m/s(60kt)
予報円の半径	200km(110NM)

〈01日09時の予報〉	
強さ	-
存在地域	東シナ海
予報円の中心	北緯 30度50分(30.8度) 東経 126度35分(126.6度)
進行方向、速さ	西 ゆっくり
中心気圧	990hPa
中心付近の最大風速	20m/s(40kt)
最大瞬間風速	30m/s(60kt)
予報円の半径	240km(130NM)

台風的最接近・暴風域・強風域のタイミング（陸上対象）

予報円の中心付近を通った場合（7月29日09時現在）

	強風域入	暴風域入	暴風域出	最接近
薩摩地方	29日夕方	-	-	30日明け方
大隅地方	29日夜のはじめ頃	-	-	30日朝
種子島地方 屋久島地方	30日未明	-	-	31日未明



今後予想が変わる可能性があります。最新の情報をご利用ください。

風、波、雨の予想

▶ 30日12時までに予想される雨量

	1時間雨量	24時間雨量
薩摩地方	50ミリ	180ミリ
大隅地方	50ミリ	150ミリ
種子島・屋久島地方	50ミリ	150ミリ

その後、31日にかけても大雨が続くおそれがあります。

31日12時までの24時間降水量(多い所)

薩摩地方	100から150ミリ
大隅地方	100から150ミリ
種子島・屋久島地方	100から150ミリ

▶ 30日にかけての予想(風・波)

	最大風速(最大瞬間)メートル	波高メートル
薩摩地方	陸上14(25)・海上18(35)	4
大隅地方	陸上12(25)・海上15(30)	3
種子島・屋久島地方	陸上・海上15(35)	3

平成30年台風第12号の特徴と防災事項

- 台風第12号は、30日明け方から31日未明にかけて九州南部に最接近する見込みであるが、寒冷渦との相互作用により、複雑な動きをし、影響が長引く可能性がある。
- 30日未明から朝にかけて非常に激しい雨の降るおそれがあり、薩摩・大隅地方では**土砂災害に警戒**
- 沿岸の海域では、強風やうねりを伴った高波、高潮に注意
- 落雷や竜巻などの激しい突風にも注意。

- 台風の進路に十分留意し、早めの対策・対応。
- 屋外での作業や外出は控え、危険な場所には近づかない。
- 危険度分布を活用し、市町村の避難情報などに従って、早めの安全確保。

今後、予想が変わる可能性があります。

気象台が発表する気象情報に留意し

最新の情報をご利用ください。

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およその 時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	～50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平 になり、高速運転中では横風 に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	～70km		風に向かって歩けなくなり、転倒 する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やタン板が外れ始め る。	高速運転中では、横風に流さ れる感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるもの がある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	～90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていなくて立っ てられない。 飛来物によって負傷するおそれ がある。	細い木の幹が折れたり、根 の張っていない木が倒れ始 める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常 の速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するもの がある。 固定されていないプレハブ小屋が移 動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	40
	25以上 30未満	～110km					固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落す る。	
猛烈な風	30以上 35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるもの がある。 ブロック壁で倒壊するもの がある。	走行中 のトラックが横転す る。	固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落す る。	50
	35以上 40未満	～140km					外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	
	40以上	140km～					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	

(注1) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。

(注2) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や廻りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なることがあります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

【台風災害に備えて】

台風は毎年のように日本へ来襲します。台風のもたらす災害はきわめて甚大ですが、「備え」をすることで被害を未然に防いだり軽減することは可能です。

「台風接近」の情報を得た場合は、台風に備える心構えを再確認して下さい。

☆ 日頃から

- ① 家回りの側溝や排水口の泥などを除去しておく
- ② 非常食の備蓄や非常持出し品の準備をしておく
- ③ 危険箇所や避難場所を確認しておく



☆ 台風が来る前に

- ① 家の外の備え
 - ・窓や雨戸の状態を確認する
 - ・テレビアンテナ、庭木、塀などを補強する
 - ・飛ぶような物を固定、または格納する
- ② 家の中の備え
 - ・非常食や非常持出し品を確認する
 - ・飛来物の飛び込みに備える
 - ・断水に備える



☆ 台風が接近しているとき

- ① 台風情報に注意する
- ② 警報・注意報に気を付ける
- ③ 危険な場所に近づかない
- ④ 避難の準備をする
- ⑤ 危険箇所の近くに住む人は早めに自主避難する



☆ 危険が迫ったら

- ① 身の危険を感じたり、避難指示等が出たら、すばやく避難する
 - ・避難の前に必ず火の始末をする
 - ・避難の際は持ち物を最小限にし、背中に背負うなどして、とっさのとき両手が自由に使えるようにしておく
 - ・誘導員の指示に従って、慎重に行動する
 - ・浸水等で避難が困難な場合は、無理に避難せず家の中の安全な場所にとどまる
- ② 避難先では
 - ・勝手な判断や行動をせず、責任者の指示に従う
 - ・最新の台風情報を入手する

